

日本語の機能語の範疇と境界

塚脇 幸代

s-tsuka{at}dream.ocn.ne.jp

0. はじめに

機能語は各言語の構造的特徴が最もよく現れる要素の集合である。その形態と振る舞いはそれぞれの言語において異なっている。これまでに名詞類(N)、動詞類(V)、形容詞類(ADJ)、副詞類(ADV)などの主に内容語について言語間に共通に表示できるラベルを模索してきたが、今回は日本語の機能語、副助詞類(JF)と接続詞類(CZ)・接続助詞(JS)について考察する。¹

1. 副助詞類(JF)

格助詞との関係をみる便宜上、副助詞と係助詞「は」「も」「こそ」などを副助詞類(JF)として扱う。²

(1) 副助詞類(JF)と格助詞(JK)

格助詞は基本的にN要素に後接するが、副助詞類はV要素にも後接する。

「太郎は猫さえ苦手である。」

「太郎は猫に近づきさえしない。」

また、格助詞とともに現れたり、単独で現れたりする。

「太郎だけが猫を飼っている。」

「太郎だけ猫を飼っている。」

名詞類(N)に後接する場合の副助詞類(JF)と格助詞(JK、「が」「を」「に」)の共存関係を表1に、動詞類(V)に後接する場合を表2に示す。1は共存可、0は共存不可を表す。副助詞類の振る舞いは一様ではない。副助詞類の多様性をうかがわせる。したがって、ここから直ちに規則性を導き出すことは控えるべきであるが、おおむね以下の図式が成り立つ。

N + JF1 + JK + JF2 + "は"/"も"

N:名詞類

JF1:名詞志向の副助詞類

JK:格助詞

JF2:副詞志向の副助詞類

JF1とJF2のどちらに現れるかは、形態によって明確に分かれるものではなく、両方に位置することが可能なものもあれば、そうでないものもある。両方の位置を取りうる場合、格助詞より左に来れば名詞(N)志向、右に来れば副詞(ADV)志向と仮定する。係助詞「は」「も」は最右端に位置するが、他の係助詞「こそ」などはこの限りでなく、他の副助詞類と同様格助詞の前後に現れる。

動詞類に後接する場合には、動詞に割り込む形で前要素はN要素、後ろはV要素をとる場合(「さえ」「こそ」と、前要素が連体形でJF自身がN要素相当となる場合(「だけ」)がある。後者の場合は格助詞が後接可能となる。

(V)N + JF + V

¹ 本稿で用いているN、Vなどで示される品詞分類は参考文献2に基づいている。

² 副助詞と係助詞をJFとする分類は参考文献2に基づいている。

V + JF + (JK)

JF	が JF	JF が	を JF	JF を	に JF	JF に	は JF	JF は	も JF	JF も
だけ	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0
ばかり	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1
さえ	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1
のみ	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1
まで	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1
すら	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1
でも	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
は	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
も	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
こそ	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0

表1 格助詞と副助詞の共存(名詞類に後接する場合)

JF	JF が	JF を	JF に	JF は	JF も
だけ	1	0	1	0	0
ばかり	1	0	1	0	0
さえ	0	0	0	0	1
のみ	1	1	1	0	0
まで	1	1	1	1	1
すら	0	0	0	0	0
でも	0	0	0	0	0
は	0	0	0	0	0
も	0	0	0	0	0
こそ	0	0	0	0	0

表2 格助詞と副助詞の共存(動詞類に後接する場合)

(2) 副助詞類の素性

副助詞は JF2 の位置に現れるとき見かけ上 ADV 要素となりうる。特に数量や時間など、副詞性の強い名詞の後にある場合、その傾向はさらに強くなる。

「太郎は3個だけ買った。」

「太郎は今日だけ働いた。」

また、格助詞 (JK) のマークが無くとも格要素の候補となりうる。ここではこのような状態を格の隠蔽と呼ぶ。

「太郎は猫だけ飼っている」

「太郎は猫だけを飼っている」

上の例では「太郎は3個だけを買った」と同義に解釈される可能性が高い。格助詞「が」は「は」とは共存せず、必ず隠蔽される。格助詞の位置を占めることができるという点で、格助詞と同等の性質を持っているとも言える。別の見方をすれば、名詞類に後接でき、名詞句の要素となることができるとも言える。接辞ほど形態的に密接でなく、どちらかといえば前置修飾の関係にある連体詞に対し、後置修飾する限定

詞的な性質がある。

副助詞類が保持しうる素性を以下のように想定する。

- +J J 素性: 助詞としての性質。名詞類または動詞類に後接できる。(共通)
- +N N 素性: 格助詞が後接できる(個別に設定)
- +A A 素性: 副詞的性質。格助詞に後接できる。名詞を限定する。(個別に設定)

さらにオプションとして以下の素性を考慮する。ただし、状況により異なる。

- +Case 格要素: 格助詞を隠蔽する
- +Theme 取立て機能

副助詞は英語などで対応する訳語が生成されるものが多い(「も」に対して”also”など)。助詞本来の機能を越えた性質を持つ要素であることを物語る根拠である。

2. 接続助詞と接続詞類－接続という機能

「接続」の機能を持つ品詞は接続詞、接続助詞だけではない。助詞類「と」(犬と猫)、「や」(犬や猫)「か」(犬か猫、食うか寝るか)、「やら」(犬やら猫やら、泣くやら叫ぶやら)、「も」(犬も猫も、犬も猫も蛙も、行くも帰るも)、「に」(犬も猫も、犬に猫に蛙に)、「たり」(歩いたり走ったり)なども、二項以上の要素を接続することができる。これらの機能を持つものを CNJ と分類する。

接続詞類は被接続要素との関係に従い、等位接続(CNJC)、従属接続(CNJS)に分類し、さらに、被接続要素の単位に従い、語接続(word)、句接続(phrase)、単文接続(sent)、文脈接続(ctxt)に細分類する。

日本語の接続詞の中には形態上接続助詞と同形(「けれども」、「が」など)と副詞(句)と同形(「そこで」「そうして」など)のものが混在しており、これらが特に文頭に来た場合には高い確率で接続詞と認定される。「そこで」なども「で」に「そこ」を補ったと考えると、助詞類が位置が変わったというだけで詞になるという画期的とも言える現象が観察される。こうした現象は接続の機能を持っていても「と」や「も」には起こらない。副詞は文頭にあるとき文副詞と呼ばれるが、それらと接続詞との関係をどう捉えたらよいのか。「が、しかし、そこで太郎は考えた。」のように、これら文頭の接続詞は同時に出現することができる。要素と要素を結びつけるという接続詞の基本的な機能を逸脱する振る舞いである。そのためこれを文頭に位置する副詞とする見方もできる。副詞(=修飾要素)であれば、複数出現することが許される。そのうえで、もっとも文頭に近いものに文脈接続の機能があると仮定する。等位接続であり、被接続要素の一方(前要素)が欠けた状態と考える。そのかけた要素を、同一文内にはではなく、文の外=文脈に求める。文脈接続(ctxt)という細分類はこのために設定されている。その要素は直前の文として存在しているかも知れないし、文章の流れという抽象的なものかもしれない。

接続助詞と接続詞が「接続」できる要素を整理すると、以下のようになる。

接続助詞(CNJSに相当): 文 S

接続詞(CNJCに相当): 名詞類 N、動詞類 V、形容詞類 ADJ、副詞類 ADV、文 S、(文脈)

3. 品詞タグ体系における位置づけ

今回言及した範囲では、CZを廃止し、CNJC、CNJSとその細分類に置き換える。接続助詞(JS)は相当語(JSEQ)との関係上、当面残しておく。表3にタグの一覧(メインカテゴリのみ)を示す。なお変更点は太字で示している。斜体字は日英共通タグである。

日本語のタグ	日本語のタグの説明	英語のタグ	英語のタグの説明
<i>ADJ</i>	<i>形容詞</i>	<i>ADJ</i>	<i>形容詞</i>

日本語のタグ	日本語のタグの説明	英語のタグ	英語のタグの説明
ADV	副詞	ADJC	形容詞の比較級
AN	形容動詞語幹	ADJS	形容詞の最上級
ANCMP	複合形容動詞語幹	ADV	副詞
AUX	助動詞	AUX	助動詞
AUXEQ	助動詞相当語	AUXBE	be 動詞(不定形)
COMP	補文標識	AUXBED	be 動詞(過去形)
CNJC	等位接続詞(並立助詞を含む)	AUXBEG	be 動詞(-ing 形)
CNJS	従属接続詞	AUXBEN	be 動詞(過去分詞形)
JE	終助詞	AUXDO	助動詞 do(不定形)
JEEQ	終助詞相当語	AUXDOD	助動詞 do(過去形)
JF	副助詞および係助詞	AUXEQ	助動詞相当語
JFEQ	副助詞相当語	AUXHV	助動詞 have(不定形)
JK	格助詞	AUXHVG	助動詞 have(-ing 形)
JKEQ	格助詞相当語	CNJC	等位接続詞
JS	接続助詞	CNJS	従属接続詞
JSEQ	接続助詞相当語	COMP	補文標識
N	名詞	DART	冠詞
NCMP	複合名詞	DET	限定詞
NPRN	代名詞	N	名詞
NPRP	固有名詞	NCMP	複合名詞
NUMB	数字	NEG	否定辞
PUNC	句読点	NPRN	代名詞
RT	連体詞	NPRP	固有名詞
RTEQ	連体詞相当語	NUMB	数字
SS	接辞	PEQ	前置詞相当語
SSA	形容詞化接辞	PREP	前置詞
SSAN	AN 化接辞	PUNC	句読点
SSAV	副詞化接辞	SYMB	記号類
SSN	名詞化接辞	V	動詞(不定形)
SSQ	数量接辞	VD	動詞(過去形)
SSV	動詞化接辞	VING	動詞(-ing 形)
SSVN	VN 化接辞	VPH	句動詞(不定形)
SYMB	記号類	VPHD	句動詞(過去形)
V	動詞	VPHG	句動詞(-ing 形)
VCMP	複合サ変動詞	VPHP	句動詞(過去分詞形)
VN	サ変動詞語幹	VPPD	動詞(過去分詞形)
VNCMP	複合サ変動詞語幹	VZ	動詞(3人称単数現在形)
VPH	句動詞	—	—

表 3 日英対訳コーパスにおけるタグ体系(2008年1月改訂版)

4. 今後の課題

機能語のありようは各言語の構造的、形態的な事情に制約をうける。その制約にとらわれて一般化に踏み切れなければ、言語間の共通化につながらない。また一言語内の体系のどこかに無理があれば、他の言語の体系との調整が難しくなる。今回扱った副助詞類、接続詞類以外に、助動詞、終助詞等 Modal に関わる機能語がある。また、格助詞と格(CASE)の関係もある。これらの考察が進めば、今回の分類を再度見直すことになるかもしれない。

<参考文献>

1. 塚脇幸代. 対訳コーパスにおける品詞タグ～名詞属性を持つ日本語品詞～, 言語処理学会第13回年次大会. PD1-2. 2007年3月.
2. 塚脇幸代. 対訳コーパスのためのタグ体系, 言語処理学会第11回年次大会. P3-1. 2005年3月.